

## わたしのこせいのよさ

河西小学校四年 水元 陽菜乃

わたしは、ほいく園やようち園のおむかえのときに、とし下の子と遊んだり、とし下の子の相手になつたりするのが好きでいつも下の子とあそんでました。わたしは、四年生になつて、こんなことを言われたことがあります。

ある日、いつものように弟のおむかえをついていくと、友だちの弟さんが一人でさみしそうな顔をして、ボールをけつっていたので、わたしは、しつれいかなと思つたけど

「いつしょにあそぼ。」

と声をかけて、いつしょに遊ぶことで、声をかけてよかつたと思いました。聞いた後は、弟さんとボールをけりあつたり、すな場でいつしょにお城をつくつたりしました。ときどき弟さんのボールが右へ転がつたり、左へ転がつたりしたときに弟さんは、

「ごねんね。」

といつてけりなおしてくれました。わたしは弟さんにじょうずにけれないときがおおいからわたしはダメだなと思ひながらしょんぼりしていると、弟さんはやさしく

「だいじょうぶ。」

と言つてくれたからわたしはしつかりしないとと思いました。その

後は、二人でジャングルジムにのつて一番上までいったり、すな場で、大きな大きなお城をつくつたり、他の子たちを入れておにごつこをしたり、大きなすべり台にのつたりしました。みんなでたくさんあそんだあとに、お友だちとお友だちのお母さんがきました。お友だちとお母さんは、

「弟をみてくれてありがとうございます。」

といつてくれたときわたしはいつしょにあそびたかっただけなのに

なんでおれいをいわれるんだろうかと思いました。このようなことからわたしは、わたしがとくいなことをみつけることができました。これからは、しようらいのゆめはほいくしさんがいいなと思いました。これからも、下の子たちとたくさんあそびたいなと考えています。